

飾り原稿用紙 新デザイン  
ちくようごう  
「竹揺郷」を新発売

株式会社あたぼうは、2023年1月から「飾り原稿用紙」の新作、「竹揺郷（ちくようごう）」を発売します。新作「竹揺郷」は、弊社のコーポレートカラーでもある「深緑」を使った、落ち着いたイメージの飾り原稿用紙です。日本の昔話をイメージした部分、また、竹のもチーフに合う雀や月、だんごなどを配して、遊び心も忘れていません。今回のデザインの特徴は、左右非対称。これまでも左右非対称の飾り原稿用紙はありましたが（海洋巡など）、それをさらに強く出した形です。

デザインは、いつものとおり、デザイナーhoririum氏、監修は文具ライターである小日向京氏です。弊社先行製品である、「波抹茶」に続く緑の飾り原稿用紙です。

#### ■商品開発の経緯

竹をモチーフにすることは、弊社代表佐川の「波抹茶よりもさらに深い緑を使いたい」というところから始まっています。また、波抹茶は非常にシンプルな飾りとなっていることから、もう少し余白を詰めてしまった「緑ベース」の原稿用紙にしたいという想いがありました。これをデザイナーのhoririum氏にぶつけたところ、現在のデザインの原型となる左側の竹の絵が提供され、デザインの第一歩が踏み出されました。

その後、horirium氏が近くの竹林などを散策したり、取材したりして、原稿用紙下部の蔦の部分や筍の部分などが加えられていきます。柱については、始め竹取物語をイメージした光る竹の部分ができあがり、その後、月見団子が加えられます。

月見団子が加えられたのは、右上に「月」が配置されたためです。竹取物語からモチーフを得たことで、月を配置することを決め、右上にデザインされました。実は、horirium氏から「左側にも右側と同じように竹を配置すると、かなりうるさくなりそう」という助言を受けたのがきっかけです。そこで、佐川から「では、右上に月を配置してみてはどうか」という提案をしたことで、竹取物語的な感じがさらに強まりました。この流れから柱の魚尾には月見団子が配置されました。

最後に、「竹といえば雀」というhoririum氏からの提案があり、かわいらしい雀が配置されました。

監修者の小日向氏は、このデザインを見て、すぐに「竹」、「揺れる」、「さと」という言葉を紡ぎ出して、名称は早々に決まりました。竹の揺れる郷には、きつとかぐや姫もいるでしょうし、かわいい雀たちも集まるでしょうし、春には筍が採れることでしょう。そして、秋には月見団子で中秋の名月などいかがでしょうか。

## ■商品詳細

「竹揺郷」の最大の特徴は、左右非対称であることです。そして、グラデーションを利用して遠近感を表現しています。全体的に、深緑の落ち着いたトーンですが、右上の月や右側の竹などの薄い色が軽さも表わしています。月見団子や雀などの遊び心もあり、写実的な雰囲気とかわいらしい部分が同居しています。

紙は飾り原稿用紙の定番「キンマリスノーホワイト」です。ペンの滑りがとてもよく、比較的にじみも少ない紙です（裏抜けについては保証できかねます）。

文字数は20字×20行の400文字。いつもの飾り原稿用紙のように5文字ごと、5行ごとに区切りがついています。



## ■仕様等

飾り原稿用紙

サイズ：A4

文字数：400字詰め

紙：キンマリ SW

■JAN、型番、価格等

名称	JAN	型番	内容量	価格(税別)
飾り原稿用紙 竹揺郷	4582486341632	GK0017	50 枚 (単色)	480 円

■発売予定日

2023 年 1 月 5 日ころより出荷開始予定

■小売店様へ

ご注文は、当社直接取引の小売店様は添付のご注文書にてご注文ください。ご予約を承ります。  
問屋帳合の小売店様は各お取引問屋様へご確認ください。

【株式会社あたぼうとは】

中小企業診断士である代表取締役の佐川が 2009 年に設立。東京を中心に、中小企業の経営コンサルティング、IT 導入コンサルティング、研修講師等の事業展開をしている。その一方、時間管理や文房具業界を研究しており、その一環でスライド手帳や文房具の開発販売を行っている。

2016 年日本文具大賞 デザイン部門 グランプリを「飾り原稿用紙」碧翡翠で受賞。

【本件の連絡先】

株式会社あたぼう 代表取締役 佐川博樹

Tel 042-843-1159 FAX 042-586-1214

URL <http://www.atasta.biz/>

住所 〒191-0052 東京都日野市東豊田 1-53-16

以 上